



## ◆ 講座内容のご紹介 ◆



平成29年12月3日(日)

### 第1回 邪馬台国時代の鉄 —小丸遺跡(三原市)の発掘調査から—

北九州市立いのちのたび博物館  
松井和幸

『魏志』倭人伝の鉄の記述は「鉄鍬」のみですが、邪馬台国時代の日本列島(=倭)では、多くの鉄器が使われていました。

その背景には、すでに列島内で製鉄が行われていた可能性が考えられます。三原市小丸遺跡の製鉄炉や、熊本県阿蘇のリモナイト製鉄から邪馬台国時代の鉄文化を考えてみます。

平成30年2月12日(月・休)

### 第4回 邪馬台国時代の青銅器 —荒神谷・加茂岩倉遺跡(出雲市・雲南市)の発掘調査から—

島根県古代文化センター  
松尾充晶

弥生時代を特徴づける銅鐸・銅剣などの青銅器。特に出雲は、青銅器が多い地域です。

青銅器は“農耕に関わる神祭りに使われた”とも言われていますが、どのように作られ、なぜ埋められたのか。大量に埋納された状態で発見された出雲の青銅器出土遺跡を手がかりに、その背景を探ります。

平成29年12月17日(日)

### 第2回 邪馬台国時代の土器 —元岡遺跡群(福岡市)の発掘調査から—

福岡市経済観光文化局埋蔵文化財課  
常松幹雄

玄界灘周辺では、大陸や日本各地の土器が出土します。ありふれた土器も、海峡や山々を越えると、人々の往来を示す資料となります。

近年、奈良県の遺跡で約2,000年前の北部九州の土器が、元岡遺跡(福岡市)では、広島山間部の壺が見つかりました。年末の日曜の午後、「旅する土器の物語」をお届けします。

平成30年2月24日(土)

### 第5回 邪馬台国時代の食糧事情 —旧練兵場遺跡(善通寺市)の発掘調査から—

広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門  
石丸恵利子

弥生時代といえば「お米」を思い浮かべる人が多いと思いますが、ほかにもさまざまな食物資源を利用していました。

瀬戸内の遺跡から出土したシカやイノシシなどの動物遺存体から当時の食糧事情について考えます。発見されることの少ない動・植物遺存体ですが、その魅力も紹介します。

平成30年1月13日(土)

### 第3回 邪馬台国時代の墳墓 —佐田谷・佐田峠墳墓群(庄原市)の発掘調査から—

庄原市教育委員会生涯学習課  
今西隆行

佐田谷・佐田峠墳墓群は、昭和61年に初めて調査が行われ、弥生時代後期初頭の四隅突出型墳丘墓であることが分かりました。

平成19年度からの庄原市教育委員会と広島大学の共同研究により、3基の四隅突出型墳丘墓、4基の台状墓、1基の周溝墓が明らかになりました。その調査成果を紹介します。

平成30年3月17日(土)

### 第6回 邪馬台国時代の集落 —浄福寺遺跡(東広島市)の発掘調査から—

当事業団埋蔵文化財調査室  
山田繁樹

浄福寺遺跡は、弥生時代中期から古墳時代の県内でも大規模な集落跡です。

弥生時代後期に最も栄え、古墳時代後期には消滅します。調査から約30年が経過し、同時期の調査例も増加したことから、あらためて集落の立地や構成などを再検討して、当時の集落のようすや人々の暮らしぶりを考えてみます。